

文京区アカデミー推進計画 | 第3回観光分科会  
 施策体系(案)

分野別の目標	基本的な方向	現行計画との対照	分科会でのご意見等
1 まちあるきを中心とした観光促進への環境づくり	(1)文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ (ストーリー性ある観光コースづくり)	1-(1)・(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何に価値があるのか、地元の人でも気付かないことがあるので、どのように外の目線を入れるのか、よそ者、若者の複数の目線を向けないといけない。</li> <li>○住民にとって当たり前なのが魅力的に映るので、住民の「ふつつ」を見直すべきだ。</li> <li>○産業や坂道など、区内に集積するコンテンツを整理・分析することがも必要だ。</li> <li>○発掘しすぎず、触れられないもの(アンタッチャブル)も残しておくことで奥深い魅力が出るのではないか。</li> <li>○特に外国人は、自分の国や生い立ちに関係する事柄には反応が変わる。観光者が自分とのつながりを感じられるようなポイントのあるストーリー性を埋め込めるとよい。</li> <li>○文豪・文人がコンテンツとなっているが、若い人がどれだけ読んでいるか疑問。</li> <li>○住民が観光客を受け入れるためには、観光で得られるメリットがあるからこそ。町歩きはお金を落とさないで、メリットが何かを考えないといけない。</li> </ul>
	(2)まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築	1-(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○有名な飲食店はあるが、名物はない。一押しコンテンツがない。</li> <li>○区内の飲食店等は閉店が早く商売っ気がない。</li> </ul>
	(3)安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進	2-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光に関心のなかった住民が、自治体の観光振興によって自分たちに利益があると分かる街の様子が変わったという事例がある。</li> </ul>
	(4)区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり	2-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コースづくりの視点について、観光客では楽しむ視点が違う。短時間で楽しむという視点を考えると、必ずしも深さだけが魅力ではないのかもしれない。</li> <li>○観光スポットがあってもどのようにして行けばよいか、その説明が意外とどのパンフレットにもない。</li> <li>○Bーぐるを観光の足にする。</li> </ul>
	(5)文の京の魅力を活かすイベントの推進 (交流充実に向けた環境づくり)	2-(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ドームには年間約 3,500 万人が来場するが、そのまま車や地下鉄、JRに乗って帰り、外に出てこない。</li> </ul>

分野別の目標	基本的な方向	現行計画との対照	分科会でのご意見等
2 観光まちづくりのための情報発信	(1)「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化 (ターゲットの明確化/区民生活への配慮)	3-(1)・(2)	○区内に観光資源は多いが、文京区という名前と結びついていない。 ○シティセールスのキャッチフレーズを考えてもよいのではないか。 ○どのような組み合わせで周遊しているのか、意識しながらマップづくりや情報発信をする必要がある。 ○ホスピタリティと言うが、マナーの悪い人もいるので、住宅近くに観光客が来ることを受け入れられない区民もいる。暮らす人・働く人を邪魔しない観光が必要。 ○大学や教会など、観光客を受け入れない場所がある。
	(2)メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR	3-(3)	○どのような組み合わせで周遊しているのか、意識しながらマップづくりや情報発信をする必要がある。 ○食べ物のマップは評判がよい。ほかの観光資源をマップにしてもよいのではないか。
	(3)情報通信技術を活用した情報発信の推進	3-(4)	○ICTを活用した情報発信を検討する。
3 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり	(1)文京区の魅力を伝える人材等の育成 (ホスピタリティの醸成)	4-(1)・(3)	○区民一人ひとりが区のオススメを言えるようになり、観光ガイドになる。店舗の方は定点ガイド、まちの人は案内ガイド。
	(2)観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用	4-(2)	○小・中学校の副読本にもう少し観光目線(区外からどのように評価されているのか、何が魅力なのかといった視点)を取り入れてもよいのではないか。
	(3)さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり (「学び」の要素との連携・MICEの誘致)	4-(3) 1-(3) 2-(5)	